

平成30年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立青谷高等学校

学校長 小 川 勝

評 価 日	平成31年2月19日（火）	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 各評価項目の経過達成状況、評価について説明し、了解していただいた。評価についてはもう少し高い評価でも良いのではないかというご意見（評価の判断が、生徒の学校評価アンケートの数値に偏重しすぎではないか。）もいただいた。 ①学力の向上について ・中学生はタブレット端末等への関心が高い。青谷高校がタブレット端末を活用した授業を推進していることをもっと中学生やその保護者にアピールすべきだ。 ②進路の実現について ・進路の実現を評価する指標として「離職率」なども考えてはどうか。 ③社会人基礎力の育成について ・授業態度は年々良くなっている。 ・生徒の自己肯定感を育成する取組で、職員が自主的に研修に参加したのは評価できる ④地域連携の推進について ・青谷中学校でもICTを活用した授業に取り組んでいる。青谷高校と連携した取組ができるのではないか。 ・青谷小学校との連携は、青谷高校でコラボ授業を実施するなど、例年以上に充実していた。連携をさらに強めてほしい。 ・学校が作成したポスターは素晴らしい。明るく楽しそうで、学校のイメージを変える。 ・「映像」による学校紹介ができれば、今の中学生に受け入れられやすいのではないか。		・評価指標、評価判断基準について再検討し、来年度の自己評価に活かす。 ・「学校案内」「あおこうだより」などで情報発信したい。 ・合格率だけで評価していたが、進路部と検討していきたい。 ・ICTを活用した授業の相互参観や合同の研修会などを実施し、青谷中学校との連携を推進したい。 ・課題探究の実践活動での連携など、新たな取組を検討していく。 ・今後も広報活動に力を入れ学校のイメージアップを図りたい。 ・サーフィンは映像による紹介を一部行ったが、次年度はその他のものについても広げていく。

・「あおいちボランティア」は企画から参加し、青高のブースを出してはどうか。 ・生徒の自己肯定感を高めるためには「できた」という体験が大切ではないか。 (2)説明・公表について 3月末までに学校HPに掲載し、公表する。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○学校裁量予算による独自事業の取組状況とその成果について、ご理解いただくとともに高く評価していただいた。 3. 取組改善のための提言 ○部活動の活性化について ・部活は社会の縮図であり、部活を通じて社会を疑似体験して成長できるので、部活を充実させてほしい。 ・学校が部活への加入を促す。部活に所属しない生徒は地域のボランティアへ参加させてはどうか。 ○青谷学について ・青谷学はもう少しテーマの設定方法などを工夫してはどうか。（生徒が青谷の「いいね♡」を探して、自分のテーマを決めるなど）	・青高のブースについては、青谷学・課題探究の取組の中で実現したい。 ・生徒を「褒める」だけでなく、授業や学校生活のいろいろな場面で「わかった・できた」と生徒が思える体験を多く持たせられるようにする。 ・部活未加入者への声かけ等部活加入を促す取組を実施していく。 ・青谷学のテーマ設定については、毎年工夫・改善を重ねており、来年度に向けて改善をはかる。
---	--